

平成28年5月16日

東部農林振興センター出雲農業普及部

| | |
|-----|--|
| 標 題 | かあちゃんブロッコリー 設立30周年を迎えて ～ハイカラで軽いブロッコリーを2億円に～ |
|-----|--|

(ダイジェスト)

5月9日、JAしまね出雲ブロッコリー部会の第30回通常総会が開催され、その後、設立30周年記念式典と記念講演が開催されました。記念式典では今後「かあちゃんブロッコリー」が更なる発展をし、販売目標金額2億円の達成を目指していくことが確認されました。記念講演では『よもやまばなし～よもよもだらぞ～』と題し、ブロッコリー栽培30年の歴史を面白楽しく振り返りました。

当日は部会員をはじめ、JA、市場関係者、出雲市、島根県など約60名が集まり盛大に開催されました。

旧平田市のブロッコリーの歴史は「ハイカラで軽い作物をつくろう」という発想から始まり、昭和57年に試験栽培が行なわれました。昭和63年に「ブロッコリーをつくってハワイに行こう」という目標を掲げて部会が設立され、わずか3年後の平成2年には販売金額1億円を突破し、実際にハワイ旅行を満喫されました。その後、定植機の導入、作業分業化による省力化を強力に推進し、現在のブロッコリー産地を築かれました。

記念式典では、部会設立から30年にわたってブロッコリー栽培をし、産地発展に貢献をされた6名に功労賞が授与され、また、大会スローガンが発表され、販売目標金額2億円を目指すこと、消費者に安全・安心なブロッコリーを届けることなどが確認されました。

その後の記念講演では、部会設立当初からJAの営農指導員として関わってきた小村 正氏と佐田尾 豊氏がブロッコリー栽培の始まりからこれまでの取り組みについて講演され、最後に「これから先に向けてかあちゃんブロッコリー振興プロジェクトを立ち上げみんなで一緒に考えよう」と提案がありました。

現在、高齢化などの理由から個人での生産が減少しつつありますが、一方で集落営農組織や法人での取り組みが拡大しており、昨年は新規で2組織が栽培を開始され、今年産も新たに栽培を検討している組織があります。当普及部としてもJAしまね出雲地区本部、農業技術センターと連携し、プロジェクト化に向けた取り組みを進めるなど、ブロッコリー産地が更に発展していくよう支援していきます。



功労賞の授与



講演している小村氏